七月の保育

生活訓練

倉橋惣三

「系統的保育案の實際」(本會發行)では、七月の保育案は十五日までになつて居り、一體に簡略のやうである。なにも夏むきといふのではないが、附屬幼稚園の保育が時間短縮になり、休暇が早く始まるからであつて、一般にはあてはまらぬこと、又、附屬幼稚園としても、戰時の今年はこの通りでないであらう。

ところで、「**仕事の前に手を洗ふ**」にしても、汗ばみ易い此頃に特に必要のことであり、「**水道を使つたあと栓をよくしめること**」は、必ずしも夏に限つたことではないが、何んとしても、夏に多いことであり、いはゞ、多少實際的の訓練である。が、たゞ實際の爲の訓練といふのでなく、こうした機會を以てする、生活の躾けであることは勿論である。

さて、此の二つとも、事としては極めて簡單なことであるが、それを、どうして訓練するかは必ずしも簡單でない。「仕事の前に手を洗ふ」にしても、その度び毎にやかましく言つて、傍からその癖をつけて仕舞ふといふのも一法であらうが、それだけでも濟むまい。それかと言つて、一々理由を說き、理解に訴へてゆくのでは、幼兒には出來ないことだし、又、却つて純粹に癖のつくことを妨げることもある。一々、理解を通してゆくのは、敎育ではあるが、訓練としては、手數をかけ過ぎる方法である。

そこで、斯うしたことの訓練の、一番自然な訓練らしい仕方は、**第一、先生がきつとそうすることである。**そうして見せるといふのは手段的過ぎる言ひ方であるが、そうでなく、實際に、先生もその訓練が先づついてゐて、識らず〳〵するのが、子どもを、いつとなしに誘ふところに力强さがあるのである。つまり先生が何時でもそうすることによつて、それが、**あたりまへ**になるのである。

若し、その先生の實際に從つて、子どもの幾人がどそうなれば、それは一層いゝ。先生ひとりでは、人間だけのあたりまへであるが、幾人かの子どもがするやうになれば、**社會的あたりまへ**になるのであつて、その力は實に强い譯である。そこで、これを方法的に適用すれば、全體を一時に躾けようとするよりも、幾人かを先づ訓練して、それを以て社會的に導く原動力とするのが一法でもあらう。

一體、幼稚園で、家庭よりも訓練がしにくいようで、しいゝのは何の爲か、個人的指導としては、家庭の方が都合がいゝ譯であるが、社會的指導としては、幼稚園の方に、大に都合のいゝところがある。幼稚園での生活訓練は、此の長所を活用しなければならない。

次に、生活訓練のしかたとして、是非必要なことは、**餘り賞罰の手を濫用しないことである。**それは目の前にきゝめはあるが、それだけに、ほんとうの、底からの訓練にはなり難いことがある。それよりも、その生活そのものとしての感じを主にしてゆく方がいゝ。即ち、**その生活の愉快、快感に訴へてゆくのである。**「手を洗ふ」にしても、それは子どもながらに快いことに相違ない。その快さを以て導くのである。それを逆にすれば、手を洗はないと不快であるといふところへ心を導いてゆくのである。これは、賞罰によるのに比べて甚だゆるやかなようであるが、これこそが、實は、一番きゝめが深いのである。生活訓練は生活訓練である。一々道德的性質をもち一々道德的價値で評價せられる程のことでもない。道德的のことならば賞罰に相當もしようが、生活は、その快不快こそ、最も大きなものである。

が、いづれにしても、**習慣であるから、例外なしに繰りかへさせるといふことが、一番有效な、**必須の方法である。「水道の栓をしめる」など、道德でもなし、又、子ども自身にとつて、格別、快でも不快でもない。といつて節水の理を話しても、幼兒には分りようもない。そこで、たゞもう一途に、反復によつて癖をつけるだけである。多少うるさがるかも知れないとしても、又、先生の方として大に面倒としても、それを忘らぬやうにしなければならぬ。

生活訓練は、子どもの方のことであつて、それがつかないと、子どもが駄目とせられるが、實は、先生が駄目なのである。**生活訓練をする生活訓練が、先づ、先生についてゐるのでなければならない。**不精な先生、おつくうがりの先生、めんどうくさがりの先生、つまり、**生活訓練にまめな先生**でなくては、如何に生活訓練の必要を考へてゐるからとて出來るものではない。更に、恐らくは、生活訓練の快感を自ら體驗してゐるのでなくては、生活訓練の必要だけでは、決してほんとうに、先生のあたりまへにまでになるものではあるまい。

自由遊戯

上遠文子

夏が來た。まぶしい樣な太陽の光の中に、汗ばんだ、日やけした子供達の顏をみる時、伸びよ〳〵ぐんと伸びよ、と呼びたくなる。

暑いがしかし鍛錬すべきこの夏に、子供達も戸外へ、そして大いに強くきたへたいものであります。

かげふみ

くつきりとうつゝた自分の影、お友達の影。何となく夏らしい樂しい遊びであります。鬼ごつこのやうに、ジャンケンで鬼をきめます。鬼は逃げる人を追ひかけてゆき影をふまふとするので、踏まれた人は鬼になります。逃げる時、木の蔭又は家の影に自分の影をうづめてわからなくしてしまひます。鬼ごつこの陣といふ